

旬アジ・旬サバの 産地表示と 差別化戦略

**アジ・サバの水揚げ
国内トップクラスを誇る
松浦魚市場**

水揚げ魚種日本一の長崎県の北部に、人口二万二千人の松浦市があります。平戸諸島、五島列島、対馬、壱岐などの外洋性多島海群や西海国立公園に指定されている九十九島が並ぶ美しい海域で、本土との玄関口として発展し、全国有数の港町として栄えています。



大型巻き網の拠点市場として開設された松浦魚市場の取扱魚種は、七割がアジ・サバで、その取扱量アジ二万ト、サバ四万トは、全国生産量の二割のシェアを誇っています。特に、旬アジ・旬サバは、淡白が持ち味の関アジ・関サバとは一味違う、脂ののった刺身にぴったりの松浦ブランドとして高い評価を受けています。



旬サバ



松浦市

長崎県

腸菌の九九・九%を殺菌できる装置で、「冷海水供給装置」は、その殺菌された海水を冷却し保存するための装置です。そして、この殺菌された海水で魚を洗浄し、衛生管理を行っています。最新機器を活用した、科学的に検証できる高度な衛生管理手法が松浦魚市場の特徴です。

二〇〇三年四月二十日、高度衛生化された出荷センター「おさかなドーム」が本格稼働しました。

鉄骨一部二階建てのセンターは、水揚げされた魚の箱詰めや発送作業を行う立て替え場と船員の仮眠、休憩室からなっています。夏でも室温を二十前後に保つことのできる室内は、鮮度保持に役立ち、二重扉を設置することで物流を一方方向にすることに、作業の効率化、労働環境の改善につながっています。これまでは、仕入れた魚を発泡スチロール箱へ詰め込む作業を吹きさらしのセリ場で行っていましたが、衛生管理の面からも大きく改善されました。また、モラル向上にも努めています。松浦魚市場内の生産者や卸会社などで構成されている「松浦水産基地 HACCP 対策委員会」は、食品の安全性を高める衛生管理システム HACCP（危害分析重要管理点）の考え方を取り入れ、喫煙場所や通路の設定、防鳥ネットや残さい置場の設置など、松浦魚市場における細部にわたる衛生管理指導を行い、衛生管理に関するルールの周知徹底を呼びかけています。



2003年4月20日に高度衛生化された出荷センター「おさかなドーム」が本格稼働

差別化戦略

**CD ROMで音声も使って
消費者・流通業者に
産地情報をアピール**

松浦魚市場協会は、殺菌冷海水を活用した高度衛生管理に取り組み松浦魚市場の「安全と安心」を消費者や流通業者にアピールし、消費や販路の拡大を目指すため、「産地アピール」を推進しています。

鮮魚の輸送箱や店頭のトレーに「長崎県産・松浦港発 無菌海水使用」と訴える大小二種類の産地表示シールを張った商品を試験的に出荷しています。

さらに、松浦魚市場関係者でつく



る「産地アピール推進事業協議会」は、松浦魚市場で扱った魚介類や漁法、調理法などの産地情報を盛り込んだCD ROMを作成し全国の小売店に無料で配ることを決定しました（予算百八十万円）。魚市場が販売促進用にCD ROMを作成・配布することは全国でも珍しい試みです。松浦魚市場の高度衛生化への取り組みや取り扱った魚種、漁法、調理法などの多彩な産地情報を画像や動画、音声を使って盛り込むほか、小売店が店頭掲示するポスターの作成ソフトも入れておき、各小売店に大きな負担をかけることなく「松浦魚市場産」をPRしてもらうという狙いも込められています。

差別化戦略

**情報ネットワークを構築して
全国に先駆けて
電子セリを導入**

漁場と市場 仲買人を電子情報でネットワーク化し、市場で水揚げせずにセリなどを行う「電子セリ」が二〇〇一年から全国に先駆けて実施



されています。電子セリには、規格が容易なものがないという研究結果に基づいて、現在では「イカ・カタクチイワシ・コーソクサバ・豆アジ」が対象ですが、ノウハウの蓄積により早期に魚種が拡大されるのが期待されます。

電子セリは、漁場の漁船が携帯電話を使い、魚種や漁獲量などのデータを松浦魚市場の卸会社である西日本魚市の情報センターに送信すると、仲買人はパソコンや情報端末を使って情報を検索し、市場の外にいながらセリに参加、取引成立と同時に集配のトラックを漁船の最寄の港に手配する仕組みとなっています。

松浦ブランドを 確立するための今後の展望

1 消費者ニーズにあわせ
製品表示を一層充実化
JAS法の改正以来、小売段階での産地表示は改善されつつありますが、製品表示に関する消費者ニーズはさらなる高まりをみせ、魚に関しては、漁獲日、衛生管理の内容が強く関係しています。このような消費者ニーズへの早期対応が、旬アジ・旬サバのブランド化の推進力になります。

2 量販店との直接取引の検討
松浦魚市場が量産型であることを生かすため、量販店との相対取引の検討が必要と考えられます。生産者情報のバーコード化や欠品等の供給リスク、サプライチェーン化など解決すべき課題は残されていますが、価格が確保できる継続的取引のチャンスでもあると考えられます。

第14回「電気のあるさとじまん市」開催のお知らせ



昨年の「電気のあるさとじまん市」会場風景

ぜひこの機会に「電気のあるさとじまん市」で、美味しいものに舌鼓を打ちながら、郷土芸能を堪能されてはいかがでしょうか。
皆さまのお越しをお待ちしております。

今年も、電源地域の特産品や郷土芸能を一堂に集め、首都圏の人々に広く紹介する「電気のあるさとじまん市」を十一月二十一日(金)から二十三日(日)までの三日間、千葉県幕張メッセで開催します。入場は無料です。

これは(財)電源地域振興センターが、電源地域の特産品の販路や交流人口の拡大を図り、産業振興を支援することを目的として主催しています。今年度は、過去最高の二百三十一市町村の参加が予定されており、電気消費地である首都圏の人たちとのより多くの交流を進めてゆきます。

会場内には、各地の特産品の展示即売および電源地域の食べ物・飲み物をその場で味わえる実演販売、「じまん市大賞」の表彰式、郷土芸能を披露する「じまんステージ」などのほか、出展市町村への誘客促進のための観光PRコーナーも設けています。

「エネルギープラザ2003福井・高浜町」のご案内 今年は高浜で「若狭ふぐ」を食べよう!

「エネルギープラザ2003福井・高浜町」を十一月五日(水)から七日(金)まで福井県高浜町で開催いたします。

今年で十八回目を迎えるエネルギープラザは、「地域協働力」を全体テーマとして、全国から電源立地地域の関係者にご参加いただき、実践力向上を目指したプログラムで展開することとしています。

開催地の高浜町は福井県の西端に位置し、豊かな自然と歴史文化に育まれた景勝地として知られておりま

す。町内の民宿・旅館から歩いていけるところに、貴重な文化遺産ともいえる古寺や、風情のある町並みが数多く残されており、町内を散策するだけで心が癒され、そこに住む人と交流することにより、まちづくりに役立つ新しい発見があるかもしれせん。

また、高浜町が全国に誇る魅力のひとつに新鮮な「海の幸」があります。エネルギープラザが開催される十一月は、「若狭ふぐ」をはじめ魚介類が豊富に取れる絶好のシーズン



です。

エネルギープラザ事務局では、全国からの参加者の皆様にこれら地元「海の幸」を「賞味いただけるよう、素朴で暖かいおもてなしが自慢の高浜町内の旅館・民宿を中心に宿泊先の準備を進めております。また、これらのお宿にご宿泊いただき、「若狭ふぐ」をご賞味いただける大変お得な「エネプラ宿泊プラン」をご用意することとしております。

参加者の募集は九月上旬からを予定しております。全国から多数の皆様のご参加をお待ちしております。

ホームページを充実しました!

高浜町の宿泊情報をはじめ、エネルギープラザに関する情報は「エネルギープラザホームページ (<http://www.enepla.com>)」をご覧ください。

ホームページでは、年間を通じた地域振興に関するコンサルティングを行うこととし、地域振興事業検討会の事前学習や開催後のフォローアップ、コミュニケーションの充実など、エネルギープラザがよくわかる、役立つ情報満載です。みなさんからのたくさんのアクセスをお待ちしています。



平成十四年度

「地域のひろば」総括アンケート

「地域のひろば」の読者の皆様から寄せられた意見を反映し、より良い紙面づくりに役立てるため、アンケートを実施しました。アンケートは百四十五通の回答がありました。

「地域のひろば」の活用目的

「地域のひろば」は、地域振興方策の検討や政府などから発信される情報の収集などに活用されています。今後取り上げて欲しい事例

「地域のひろば」の誌面上に今後取

り上げて欲しい事例を聞きました。調査の対象は自治体のみとし、回答は百七十二通でした。「高収益をあげている事業」が七十八件で最も多く選択され、次いで、「再建を果たした事業」が五十七件、「従来通り」が二十四件となっており、収益性と事業の再建に対する関心が高いことがわかりました。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

「地域のひろば」活用目的のアンケート項目

活用方法 地域振興

地域振興方策についての検討のため、地域振興先進事例を参考にしました。
地域振興方策についての検討のため、電源三法交付金活用事例を参考にしました。
広く配布する資料等のため、誌面を引用するなどして活用した。
掲載事例の市町村に直接問い合わせをし、さらに詳しい内容について情報収集を行った。
読み物として楽しんだ。
その他

活用方法 政府などから発信される情報の収集

広く配布する資料等の作成のため、誌面を引用するなどして活用した。
電源三法交付金に関する新たな知識を得ることができ、自らの理解の向上に役立った。
読み物として楽しんだ。
その他

